

いぐさの泥染め作業における「染めむら」防止対策

農業研究センター い業研究所 加工部

研究のねらい

いぐさの泥染めにおける染土の付着には年次間差がみられる。特に収穫時期に晴天が続くと、染土の付着が悪く、豊表として出荷した際には「むら染め」として返品されることもある。

このことから、染土の付着効果を高めるための対策について検討した。

研究の成果

1. いぐさの刈り取り時刻と染土付着

いぐさの刈り取り時刻により、染土付着に差がみられる。特に120cm以上の茎ではそれが顕著であった。(第1図)

このことから刈り取り時刻は、午前は7時まで、午後は6時以降が望ましい。

2. ほ場周囲のいぐさと染土付着

ほ場周囲の2列までは、ほ場中央のいぐさに比べ染土の付着に差がみられる。

(1)ほ場の周囲に防風遮光ネットを張ることで、染土の付着むらはいくぶん解消できる。(第2図)(九州農業研究第57号参照)

(2)また、ほ場周囲のいぐさを染土濃度5kg/10リットルで泥染めすれば、ほ場中央のいぐさの染土付着とほぼ同等の効果が得られる。(第3図)

3. 泥染め後の水切り方法と染土付着

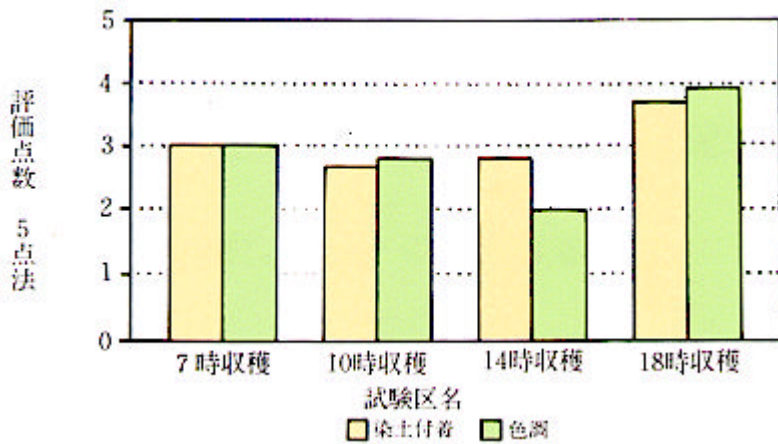
(1)染土濃度が標準であれば、泥染め後の水切りを縦にするより横にした方が染土の付着はよい。

(2)染土量が5kg/10リットルの高濃度になると、水切り方法による染土付着の差は小さくなる。

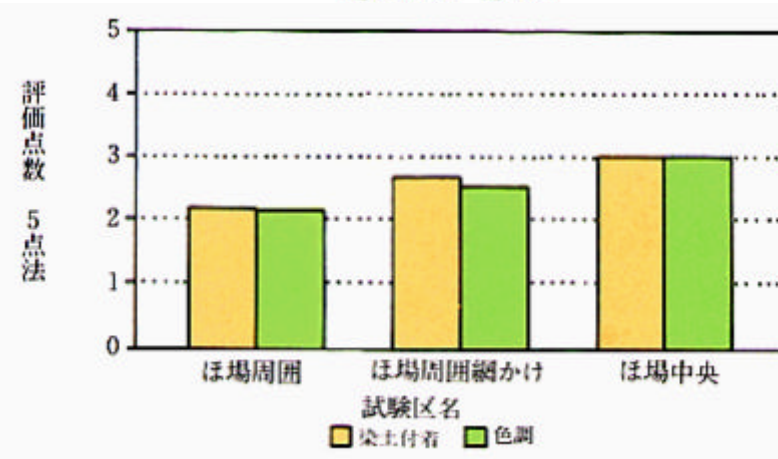
4. 使用上の留意点

(1)今回の試験の中で、水によるシャワーとの組合せについても検討を行ったが、その効果は明確に現れなかった。

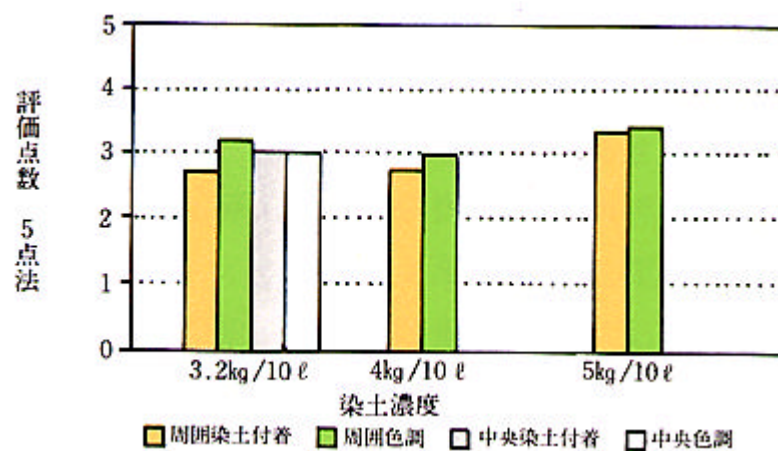
(2)ほ場周囲のいぐさについては、ほ場中央のいぐさに比べて、染土付着が同じになっても茎そのものの色調や形質が異なるので、分離して貯蔵、加工する必要がある。



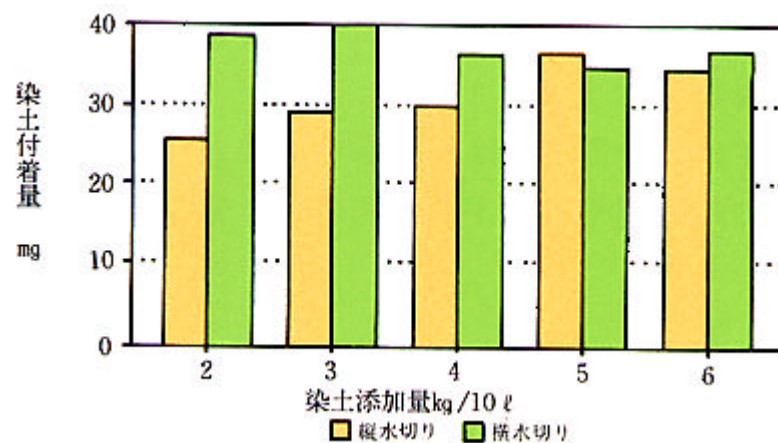
第1図 刈取り時刻と畳表(片織り)の評価 (5段階評価・120cm以上)



第2図 防風遮断ネットの使用によるほ場周囲いぐさの染土付着・畳表の評価 (5段階評価・120cm以上)



第3図 染土濃度の違いによるほ場周囲いぐさの染土付着・畳表(片織り)の評価 (5段階評価・120cm以上)



第4図 染土濃度と水切り方法の違いによる染土付着量